

関東地区地球環境基金 助成金説明会・セミナー



令和2年10月20日
特定非営利活動法人ACE 杉山綾香
(若手プロジェクトリーダー育成支援：5期生)



**私たちは、子ども、若者が自らの意志で、
人生や社会を築くことができる世界をつくるために、
子ども、若者の権利を奪う社会課題を解決します。**

1997年設立当初から**児童労働問題**にフォーカスし、
インド、ガーナの28村で2360人の子どもを児童労働から解放し、約1万3500人の教育を支援。(2020年5月現在)



ガーナのカカオ産業

- ①スマイル・ガーナプロジェクト
- ②ガーナ政府との「児童労働フリーゾーン」
(Child Labour Free Zone) ガイドライン+手順書策定
- ③JICA調査案件



ガーナ

CRADA



インド

SPEED



**インドのコットン産業
ピース・インド プロジェクト**

日本



日本の子どもの権利



啓発・市民の参加促進



**日本政府の取り組み強化
に向けたアドボカシー**



日本の児童労働予防



**児童労働に加担しない
ビジネスの浸透**





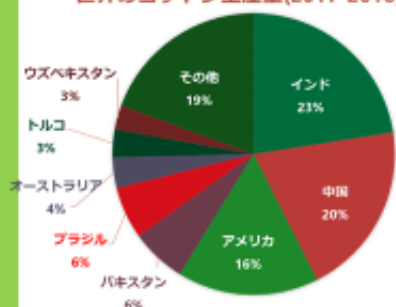
8.7 強制労働の廃絶、現代の奴隷制度および人身取引の廃止、子ども兵士の採用と使用を含む最悪の形態の児童労働の禁止及び撤廃のための即時かつ効果的な措置をとり、2025年までにあらゆる形態の児童労働を終わらせる

「インドのコットン生産地の環境・社会課題を解決する持続可能な Cotton の普及啓発活動」

2020/1/27 ver.1
特定非営利活動法人ACE

インド Cotton 生産地 / 日本 消費国の現状

世界の Cotton 生産量 (2017-2018)



① 農薬・肥料使用
X 土壌劣化
X 水質汚染
→ ① 人工授粉作業
→ **児童労働発生** (38万人→48万人)
14歳未満: 約20万人 = 労働力全体の25%
② 農薬散布による **人体被害増**

サステナブル Cotton (オーガニック・BCI・OCS・GOTS等)
を扱うことで改善されるのでは

企業への意識啓発 - これまでの活動 (助成1年目・2年目) -

繊維関係企業
アンケート調査
(実施把握)

イベント開催
(意識啓発)

ウェブサイト開設
準備
(情報公開・意識啓発)

サステナブル Cotton に関する取扱状況 (67社中)



- ✓ 経営判断を要する
- ✓ 業界内の連携強化要
- ✓ 情報把握が促進のカギ

Q ACE Cotton アンケート

企業 **207名** (のべ)

学生・一般 **250名**

解決したい課題

・どんな認証基準があるの？

・海外の事例は？

・人権のことわからない

「まずは認証から...」



大量生産/消費・誰が作っているのかわからない...



仮説

企業：認証を含む情報収集の場が欲しい

学生：トレーサビリティの取れた衣服が欲しい・関心が高いのでは？

今後のアクション - 助成3年目 -

のべ **145企業** → 目標 **160企業**

インド
パートナー NGO スタッフ日本招聘・
イベント開催
(意識啓発・世論喚起)

学生と企業を同イベントに招待し、
Cotton 生産地の現状を改善するための
方法論を検討・議論する場を設定する

海外動向のシェア
(国際会議参加)
(意識啓発・世論喚起)

・海外の先考事例を翻訳・国際会議に参加し、
オーガニック Cotton の状況を学ぶ
↓
ウェブサイト公開・発信

企業訪問
(意識啓発)

関心のある企業へ個別
フォローを行ない、上
記目標へ近づける

今後の予定

パートナー NGO 招聘準備
(4-11月)

招聘イベント
(12月)

企業・学生フォロー (1-3月)

レポート翻訳 → 公開 (4月)

国際会議参加準備
→ 参加

参加報告ウェブ公開 / 関心
企業へフォロー

企業訪問
(随時)

問合せ企業フォロー

アンケート実施

アンケート公開

実施内容

活動 1：企業に向けた啓発・働きかけ

- 1) 企業向け啓発イベントの実施
- 2) 過去ツアー参加者との連携活動創造
- 3) コットン生産地の農家の声を直接企業に伝える
- 4) コットン農家へのアンケート調査実施と企業向け発信

活動 2：サステナブルなコットンに関する情報のウェブサイト更新・運営

- 1) ACE企業向けウェブサイトでの情報発信
- 2) Textile Exchange発信の情報の掲載

活動 3：消費者との連携活動

- 1) オンライン講演内容の検討・実施
- 2) インドパートナーNGOスタッフを招へいしたイベント企画・企業啓発

新型コロナウイルス/ロックダウンの影響で起きていること（インド・テランガナ州）



1. ロックダウン/市場の閉鎖のために収入の減少または喪失

- 5月 行政からの支給では足りず、借金を増やしてしのいでいた。
- 9月 少しずつ日雇いの仕事もできるように。ただし毎日仕事がない。

2. 学校休校のため子どもの教育・遊びの機会が奪われている

- 5月 州政府はオンライン授業を進める方針。ただし、設備整備が農村部の学校まで整うのには時間がかかる見通し。
- 9月 9月末までは休校継続。子どもの安全を確保できず親は子どもを畑に。

3. 親や家族の不安やストレスが増えたことによる虐待の発生



課題

- 学校に戻らず、家計を支えるために働く子どもが増える
- もともとあった教育格差がさらに広がる
- 生活への不安の長期化による家族関係の悪化

新型コロナウイルスの影響・今後の活動（助成活動）

- ロックダウンでインドへの渡航ができず
- 当初予定していた以下の活動の見直し（出張・海外からゲストを招いたイベント・セミナーの開催等）



- 基金担当者との連携、活動変更申請の実施（現在調整・確認中）
- 基金主催のアンケート回答（コロナを受けての対策・基金へのリクエスト等）

➡ https://www.erca.go.jp/jfge/info/report/pdf/covid19_houkoku.pdf

活動 1：企業に向けた啓発・働きかけ

- 1) 企業向け啓発イベントの実施
- 2) 過去ツアー参加者との連携活動創造
- 3) コットン生産地の農家の声を直接企業に伝える
- 4) コットン農家へのアンケート調査実施と企業向け発信



- 1) 活動変更 オンラインイベントへ切替
- 2) 活動変更 1) の中でできることを実施
- 3) 活動見送り
- 4) 活動見送り

活動 2：サステナブルなコットンに関する情報のウェブサイト更新・運営

- 1) ACE企業向けウェブサイトでの情報発信
- 2) Textile Exchange発信の情報の掲載



- 1) 活動変更 ウェブサイトの充実化・再構築
- 2) 活動変更 国際会議（オンライン）参加の検討

活動 3：消費者との連携活動

- 1) オンライン講演内容の検討・実施
- 2) インドパートナーNGOスタッフを招へいたイベント企画・企業啓発



- 1) 継続
- 2) **活動見送り** 一部活動 1 のオンラインイベント
の中で実施

どのような展望があるか

- ・オンラインを活用した**インプット・発信を強化**

インプット

- ウェビナー（国内外）の参加
- 国際会議参加（オンライン）予定
- 海外レポートの翻訳等

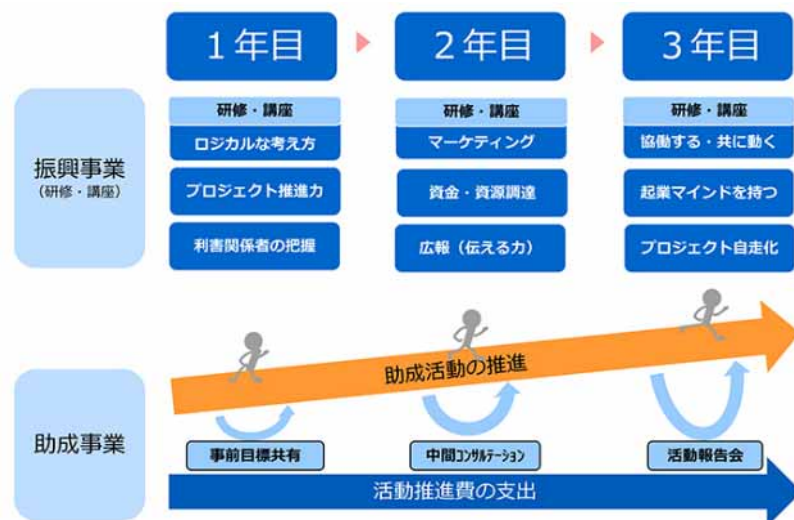
発信

- ウェブサイトの充実化
- ACEにくると、この情報が得られる！といった専門性を高める
- ・国内外のステークホルダーとオンラインミーティングを通して**コミュニケーションを図る**
- ・事業のスリム化 → **より効果を出せるものに注力**



若手プロジェクトリーダーの助成を受けて

- **同期ができた★**（喜びも悲しみも共有しあえる、今ではなくてはならない存在です）
- **学びと実践**を行ったり来たり
- 他団体の助成活動から学び、自団体へ還元
- **個人能力強化から協働へ**



コロナ禍での児童労働増加の懸念

・ 児童労働とは

■子どもの権利条約（国連、1989年）

子ども = 18歳未満、義務教育は権利

■最低年齢条約（ILO第138号、1973年）

働いてよいのは義務教育を終えてから（原則15歳）

■最悪の形態の児童労働条約（ILO第182号、1999年）

1 奴隷のような労働（強制労働、子ども兵士、人身取引）、
2 子どもポルノ、買春、3 不正な活動（犯罪）、4 危険・有害労働（日本はすべて締結・批准済み）

■ 新型コロナウイルスによる児童労働への影響→増加の懸念

- 極度の貧困の子どもの人口が4200万～6600万人増える（2019年で3億8600万人に加えて）（国連報告書）
- 親の収入減、借金の増加などにより、学校再開後も学校に戻らない可能性
- ACE支援地（インド）でも、借金増、食料品入手困難な状況。緊急支援を準備中
- 貧困が1%増えると、児童労働が0.7%増える、との試算あり（国連大学世界経済研究所は、世界の貧困が4億人から6億人増えると予想）

■ 世界1億5200万人-減少傾向にあった



■ 対応策

- ー短期：特に脆弱性の高い人たちへの
家計支援 など
 - ー中期：就学キャンペーン
家計収入向上プログラム
 - ー長期：構造的改革
- ILO-IPECの資金ギャップ：
5千万ドル



『新型コロナウイルスと児童労働：危機の時、それは行動する時』

"COVID-19 AND CHILD LABOUR: A TIME OF CRISIS, A TIME TO ACT" (ILO-UNICEF, 2020)



概要をACEウェブサイトでも紹介しています
➡ <http://acejapan.org/info/2020/06/29403>

- マラウイでは、学校の「休暇」を利用して、親は子どもを果物や野菜を売りに町へ行かせています。
- フィリピン、ザンビア、マラウイのビジネスをしている家庭では、安全や健康へあまり配慮せずに危険な状況で子どもを働かせています。特に女の子には、農業、家事、インフォーマルな仕事などで搾取されるリスクや性的虐待のリスクがあります。
- 借金のかたに子どもが債務労働に従事させられています。
- 複数の国で、子どもはコロナウイルスにかからないと考えられていて、おとなの代わりに子どもを働かせています。外出禁止令が出ていても、警察に見つけられたり、捕まえられたりしにくいので、買い物や働きに行かされています。

A photograph showing three individuals sitting on a large green and blue floral patterned mat on a dirt ground. On the left, a man wearing a white long-sleeved shirt, a white baseball cap, a blue face mask, and white gloves is writing on a piece of paper. In the center, a young boy wearing a dark long-sleeved shirt, dark pants, and a blue face mask is sitting cross-legged with his hands in his lap. On the right, another man wearing a light pink long-sleeved shirt, dark pants, a blue face mask, and white gloves is holding a piece of paper. A blue folder and a black tablet are placed on the mat between the two men. In the background, a portion of a red motorcycle is visible on the right side.

**5月初旬、活動地3村で
インタビュー調査を実施**

インタビュー回答一例（子どもたち）

13歳女子：友達と遊びたくて外に出ようとしたら、お母さんにたたかれました。

13歳女子②：自分の仕事がなくなったから、家族の収入が減って食べるものを確保するのが心配です。

10歳男子：今は勉強することができません。学校がないから親に言われて畑で働いています。

12歳男子：毎日お母さんに言われて家事をしています。心配ごとはないけど、友達と遊べなくて寂しいし、孤独を感じます。



インタビュー回答一例（親たち）

45歳父親：日雇い労働者の自分は収入がゼロになりました。その一方で感染拡大の状況下、支出は増えています。

45歳母親②：子どもの体調があまりよくないんですが、悪い時にも村から病院がある町まで行くことができないことがとても不安です。

45歳母親：夫は亡くなっていて、5人子どもがいる家庭を1人で切り盛りしています。コロナの影響で仕事も収入ありません。今の家族の状況で過ごすことにとってもストレスを感じるし、それは子どもたちにも伝わってしまって影響があらわれているように感じます。



新型コロナウイルスをうけて の現地での活動

- ・ インタビュー調査
- ・ 休校直前のブリッジスクールでの衛生指導
- ・ 保健局職員と共に家庭訪問、衛生教育
- ・ 手作りマスクの作り方を伝える
- ・ 行政支援が受けられるようサポート
- ・ 食糧支給（行政支援から漏れた/足りない世帯対象）
- ・ 休校中の学習支援

Thank you for your attention!



<http://acejapan.org/>



Twitter @ace_japan



Facebook @acejapan



sugiyama@acejapan.org